

第 39 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 25 年 3 月 27 日(水) 午前 10 : 30～11 : 35
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 10 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、桑田政美、須貝昭子、
中 宏、中村 保、牧野直子
- 以上 6 名
- 放送事業者側出席氏名 岡田 堅治 (取締役)
大平麻由美 (編成課長)
野間 耕平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 モーニングタッキー「全市一斉総合防災訓練」スペシャル
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回は、箕面市全市一斉総合防災訓練に参加したときのようすをお聞きいただきました。箕面市では今年から1月17日に、全市一斉総合防災訓練を始めました。1月17日が土曜日であろうが日曜日であろうが、箕面市内全部で防災訓練を行うということが決まりました。タッキー816でも、普段の生放送の中で、番組内容を変更して8名のスタッフを動員し、合同防災訓練に沿って放送しました。具体的には、箕面市内さまざまな地域で行われた防災訓練など6カ所にスタッフを派遣したほか、箕面市役所の中に設置された災害対策本部にもスタッフを派遣して「これは訓練の情報です」と断りを入れた上で、災害情報をリアルタイムで放送する訓練を行いました。お聞きいただいたのは、このうち4カ所からの中継部分です。訓練開始のサイレンとアナウンス、箕面市役所に設置されている緊急割込放送の装置を実際に使った割込放送の訓練、災害対策本部からの訓練の状況、箕面小校区防災委員会の訓練、船場西地区連合自治会の訓練を中継しました。番組の中では、そのほかにも災害に対する備えなどを総合的にお伝えしました。

(2) 審議

委員長：ありがとうございます。それではいつもの通り順番に、ご意見をいただきたいと思います。

委員：地域での訓練は、地区防災委員会で取りまとめをしたり、安否確認をしたりされていたんでしょうが、本当の臨場感、っていうのがあまり伝わってこないのが…。あと、一般市民がこれをどういう風に受け止めておられたのかな、っていうのが…。かなり温度差があるのかな、という風に思ったんですが。防災訓練に参加されているかた以外の一般のかたの今回の訓練の受け止め方、みなさんの反応、街の声みたいなものを、放送できたら…でもまあね、8名のスタッフを動員されたのでしたら手一杯だったとは思いますが、そういうことが伝わったらもっといいかなと感

じました。

委員：今回特にタッキーの放送を聞いていて思ったのは、防災訓練の委員長にインタビューするとかありましたけど、そうではなくて、サイレンを聞いて集まっている人とか、地域のローカルなことをタッキーでは放送するわけだから、そのときになにを聞いている人に訴えかけるかということはまだまだ課題はあるかな、と。ここから見えてきた課題を次にどう生かすかというのは大切だと思います。

委員長：今回初めてなので、いろいろな仕組みを考えてタッキーさんもしていると思うんですが、その中で「ここはこうしたほうが良かった」という注意点・反省点は何でした？

事務局：非常に基本的なことなんですが、私たちも初めての取り組みでしたので、全員が早口だったと思いました。それが反省点です。もっと災害時は焦ると思うので、こういう訓練のときから、きちんと聞いていらっしゃるかたが聞き取りやすいように、もっと落ち着いて、ゆっくりと、ていねいに、繰り返すべきところは繰り返して、お伝えすべきだったと感じています。

委員長：なるほど。

委員：タッキーを聞いて情報を掴むことしかできない人たちがその情報から何を取るのか、というのが大切。若い人たちはタッキーを聞いて情報をとると言うよりは、メールだったりテレビだったりいろんなツールを持っているから。高齢者のかたが言ったのは「タッキーを日頃聞いているときにもしあれが入ったら」とか、「火元は消しましたか？」という呼びかけがない、というか…ただ防災訓練をやっています、だけの情報であまり危機感がないのと、届けていけないといけない人たちに何を伝えるか、どう伝えるのか、というのは聞いていて思いました。

委員：箕面市の防災とか、こういった訓練のときに、役をやっているかたは真剣なんですよ。ところが、一般のかたは「参加させられている」という

人が多いんですね。全然危機感を持っていない、というのはよく分かってるんですけども、逆に、タッキーさんが今回失敗していると思います。実際現場との中継のやり取りのときに、通常のやりとりですよ。「こんにちは」というようなあいさつが入ってしゃべっているでしょ。あんなん本当のときにいわないですよ。それと、スタッフに限りがあったというのは分かってるんです。頭数が足らなかつたら一般の市民がたくさんいるわけだから、その人たちからいろんな情報を取り寄せる、もらう、というふうな…。ラジオを聞いてない人に「聞いてくれ」と言ったって全然通じない。それと同じで、無関心な連中にどれだけ言たって分からない訳ですよ。タッキーが防災訓練の中継をしたことは良かったと思っているんですが、タッキーも防災機関の一委員ですからね。だから、良かったな、と思うのと、いろんな反省点があったことも理解されていたので、防災訓練としての中身としてはよく分かっていたのかな、と思っています。あと、さっきも言ったようにスタジオと現地の取材している人との会話のときに、まず冒頭、あいさつから入られるんですよ。「電話の〇〇さん」という呼びかけがあるじゃないですか。あのときにあいさつが入る。あれは要らないですよ。あれは聞き苦しかったです。それと、インタビューのときにも、「こんにちは」「〇〇さんですか」と。そんなことを聞くよりは、安否情報を読み上げたり、「どういう風な形で参加されたのですか」とか、「どういうふうな情報でここに来られたか」とか、中には「タッキー聞いて来たのか」とか、あるでしょう。そこら辺を拾ってほしかった。後は、スタジオのアナウンサーが、ゆったりと、ほんとうにゆったりとしていて、「訓練」、防災機関の「一員」というようなお話じゃなかった。防災訓練の現場で中継しているのに、何か笑っているような感じのおしゃべりをされていた。その辺が残念だった。防災訓練、防災機関の一員として参加されたというのはたいへんよかったと思いますし、いろんな反省点も見つけていただいたということについては大変良かった。ましてや、この経験を生かして、人手が足りないときに、現地スタッフを急にとっ捕まえて、作ってしまうというやり方で。タッキーのOBや心やすくしている人とか、そのネットをつくりたいんですよ。防災機関であれば。そうしたらけっこう広く、いろんな防災情報がタッキーさんにあつまって、タッキーさんの方からもどンドンどンドン情報を発信していけるかなと思います。スタジオの人って現

場からの声を受けているだけでしょ？だから、情報を受けて、どういふふうにお伝えするのかという訓練をもう少しされたほうがいいかな、と。

委員長：どうもありがとうございます。どうですか？「この部分はこのようにできるかな」とか、「ここはこう頑張っていました」とか。

事務局：今回は、スタッフが1月17日に何人体が空けられて、何人現場に行けて、2時間という放送の中で、たとえば、スポンサーのニュースとか交通情報とかを飛ばさずに、空いている時間の中で、でき得る限りの中継をつないで、その目の前で起こっていることを伝達する訓練ということに重きを置いてやりました。ただ、報道番組ではなく、私たちも訓練、というスタンスなので、たとえば、その日の街の反応というのはまた別の機会かな、と思っています。また、箕面市が全市一斉防災訓練をするときは、私たちも放送の訓練、伝達訓練をするために今後も参加はしていきます。その中で教えていただいたことをいろいろ取り入れて有事に備えたいと思います。ありがとうございます。

委員：ラジオが、たとえば安否情報の確認など、いろいろシーンはあるとは思いますが、それを想定して模擬で入れ込んでやってもいいのかな、と。要はどうラジオを使っていいのか分からないんですよ、聞いている方はね。もし、安否情報ができるのであれば、そういうのを聴取者の人からの連絡がどこかに入って、それがラジオに流れる、みたいなそういうシーンを想定した、ラジオの使い方を入れ込む必要があるのかな、というのがひとつ、システムのリアルな市民情報の受け皿、というか、たとえばどこかの地域で火災が発生したら、携帯電話でどこかに連絡が入ると、それがラジオにつないだら流れていく、みたいな、その「どこか」が分からない、聞いていて。そういうものをつくっていく必要があるのかな、という2点が気になりました。いざ、自分がグラグラときてタッキーをつけたときに、一方的にだーっとタッキーから流れていくだけではなくて、もっと知りたいときに、自分はどこにどういう場合に聞いたらいいのか、とかそういうのがあってもいいのかな、と。そのときに被災地のコミュニティFM っているいろいろやっていますよね？その辺の事例を、こんな流し方していたとか、こんな情報の取り方していたとか、も

っとそれを生かした方がいいような気がしますよね。

委員：大きな災害になると、災害情報の窓口の一元化っていったって、すべての情報は災害対策本部にいちやうでしょ。タッキーに入った情報は、タッキーからそれを生で伝えることはできないでしょうね。

事務局：確認が必要なものはむやみに言えない。

委員：そうですね。

委員：たとえば安否情報の確認とは、具体的にどういうものなんですか？

事務局：ご家族などがタッキーに連絡をして、「〇〇さんの家族が西小の体育館に避難しているので、ラジオをお聴きになったときは西小学校に行ってください」という情報を流す。

委員：ということは、タッキーの番号も知らないといけないんですよね？

事務局：はい。

委員：そういうこともインフォメーションしないといけないわけですよ。模擬でね。「隣の〇〇さんが居ないんです！どこに居るか調べてください」というのを番組の中に入れて、もっとリアル感を出す、みたいなね。どこにかけていいかもわからないし、そういうインフォメーションもないし。そのところをもう少し具体的にしたほうが良いのかな、と思ったんですけどね。

委員：「黄色いハンカチ」での安否確認がまず始まりますよね。出てなかったところで「この人どうなった」というのが、たとえば民生委員さんだったり、地域の自治会長さんのところにきちんとあつまるようなしくみをつくっていたら、タッキーがキャッチできるのであれば、「〇丁目の〇人は確認できて、〇人は～です」という情報…名前まではたぶん難しいと思いますが、そういうことを流すルートができているかどうか、とかね、

そういうものを避難訓練のときに確認しておくことかなと思います。

委員：情報の信頼性もあるので、それをそのまま流すというのもためられるところではあるのですが、「こういう情報が来てます」というのを情報板に載せることはできますよね。そのように、ワンクッション置くようなかたちを。みんな不安になると消防署にばーっと電話してしまう。その消防署の人が電話の対応に追われて肝心なことができないというようなそういう最悪の事態があったら良くない。だから、みなさんが不安に感じていることをタッキーで流していれば、いちいち電話で問い合わせしなくてもそれが分かると。たとえば、サイレンが何回鳴ったらどうかあると思うんですが、もうちょっとその辺の情報の伝え方、入手の仕方というのを整理しながら、受け皿というか。

委員：安否情報を出すというのはたいへん難しいと思います。

委員：でも東日本大震災のときは、それをコミュニティ FM がやっているわけです。それが逆に言うといちばん聞きたいところではあるし、役立つところでもある。

委員：タッキーができることというのは限られているので、情報を流すというときに、「〇〇小学校区のかたで安否をお気遣いのかたは何番に、〇〇小学校は何番に」というのを絶えず流すとかね、「お手元の市民手帳はお持ちでしょうか」とか、聞いている人がいちばん何をしないといけないのかを言ってもらえる、落ち着いて、まず火の元は、とか、そういうことを担っているんじゃないのかなと。訓練のようすなんていうのは別に防災訓練のときに必要ない。聞いてたら分かっているから。そういうことの情報なんかは、さっき皆さんがおっしゃったように要らないものなので、「実際にこれは訓練ですが、今火の元は大丈夫ですか」とか、「頭を守ってますか」とか、「被れるものがあつたらすぐ被ってください」とか、本当に必要な、聞いている人が必要な情報を。その次に自分の身内がどうか、っていうときに、「どこどこにお知らせください」とか、「ここに行けば何とかあります」とか、「各小学校区に行ってください。通路は～」とか、そういう、どう動けばいいかの情報を段階的に知りたいというか。

特に高齢者からはそういう声が多かったですね。ラジオからしか情報が取れないから、日頃ラジオはあまり聞いていないかたに、「816回せばなんとかなる」と思ってもらえたらしめたもので、そうなったときに自分の身の守り方とか連絡の仕方を情報としてもらえるとうごくありがたい。

委員：「初めてだ」ということなんですけども、やっぱり訓練なので、要は「いざ」というときに絶対タッキーや、と。タッキーかけたら、こんなかたちで、今おっしゃったように、リアルな情報なりが出てくるんや、と、いうのをみせていく、というのがね。

委員：実際、本番になったら総力戦ですからね。

事務局：そうですね。だから1人でも多くのレポーターに関わってもらって、現場に行ってもらうことを今回重視しました。

委員：それは番組づくり全体の考え方の問題だと思います。想定して、自分の番組を聞いている人は何がほしいのかということがまず念頭にあって、その人たちにまず何を伝えなければいけないのか、ということから。だから、ただのレポーターじゃなくて、今回は災害の訓練のレポーターなんですけれども、本当に災害が起こった場合に直接ラジオを通じて呼びかける、そのためにはどういう人が何を必要としているかをまずつかまないとはいけません。それが必要だと思います。

委員：ひとつ、教えていただきたいのですが、いま広報紙の関係で、市役所の2階の分室に誰かタッキーの人がいらっしゃる？

事務局：はい。

委員：ということは、災対本部が立ち上がったら、あそこから誰かが行く？本社から行く？

事務局：日中でしたら、まず、分室の人間がいち早く行けると。

委員：行けるんですよね、分室から。ということは、タッキーってかなり早く情報が取れる。市役所にいる限り。今の業務を委託してるから。

委員：パーソナリティしか居ない時間帯に実際、災害が発生したときに、災害対策本部に入る人間がいるのかな、という心配がちょっとあったんです。日中で。

事務局：今回の訓練全般についてそうなんです、電話とネットを通じて情報を取って、「災害対策本部ではこういう情報がありました」と、電話で情報を受け取ってそれを放送したわけなんです、実際の災害時に電話は通じるかっていうと、電話が通じるくらいの災害だったらそんなに緊急性がないんじゃないか、逆に電話が通じないときにどうするのかな、というのは今後の課題。市のほうでもそうだし、うちのほうでも課題としてあると思うんですが、それは今後、2回、3回と続けていく中で、そういうことも見据えた対応も必要なのかな、と。だから、そういうときに、電話も通じない、どこから情報を取るんだ、ということになると、最後の手段として人間が直接、災害対策本部に行って、情報を取って、電話も通じない、何も通じないということになれば、またその持った情報を書き込んで、また走って戻ってくる、というのが最悪の状況かなと思うのですが。とにかく、災害対策本部に行かないと何も始まらないので、それは必須で誰かが行く。

委員：この前のパネルディスカッションのときに市長が言っておられたのですが、いま災害対策本部にタッキーもすぐ入ってもらっているのと、こういうもみじだよりとか市の情報紙の編集に関わってもらっているのも、やっぱりそういう情報をできるだけ速やかにタッキーの方がそれを使って、市民にいろんな発信をしてもらおう、というのがひとつのチャンスにしてほしい、と。また情報はたくさんあるのですが、情報を伝えるかたが網羅的ではなくて、ある程度タッキーのリスナーの人を想定して、そこからチョイスして、どこの部分をぐっと伝えていくかという、そこら辺の問題かな、と私は思います。

委員：対策本部に行ったら、インターネットで情報を流す設備は整っているの

ですか？

事務局：持ち込みます。

委員長：今日は、いろいろな貴重なご意見いただいてありがとうございます。それでは、ほかの番組に対しての意見などはありますか。

委員：ひとつだけ。1月17日にやって、また来年までこのままでいいの？と。前に、「防災ドラマをつくったら？」という話がありました。防災ドラマを一発、箕面の、タッキーメインでもいいですけど、今出た意見を総合してシナリオをつくって、やったらどうでしょうかと。今年のひとつの目標で。ある意味訓練だと思って。

委員長：いろんなご意見いただいた中で、タッキーの方もそれを重く受け止めて、その中でできることはやっていた。ひとつずつ実現してくれてきた、という実績があります。今提案があったように、今回防災ドラマをつくって見たらどうかというご意見ございましたよね。これを行政に提案して、「こういったものをしませんか」、「できませんか」ということですすめることは可能ですか？

委員：行政がやるべきことと、タッキーができることと、市民ができることと、やっぱりいろいろあると思うので、私たちもいろいろなかたちでできることはしていきたいと思うのですが、たとえば災害時のタッキーと言いながら、この前市長が言っていたように、聞こえないところが、どんどん建物の関係で聞こえなくなっているとしたら、その辺どうカバーしていくかとか、いろんなところ、それはやはり行政できちんと把握をして、行政は行政で、市民安全メールとか一斉に流すネットワークを持っているので、たとえばそういう中で考えていくとかしていただきたいし、番組づくりはこちら（タッキー）のほうに考えていただくことかな、と思いますしね。それぞれの立場でできることを。タイアップして、努力して。

委員長：一応こういった意見も出ましたので、そういった提案があつてこういっ

たことを考えの中に入れておいてください、という程度でも良いですから、とりあえずアタックするということは大事だと思いますので、よろしくをお願いします。ほかにご意見ございませんか。

委員：9月1日の防災の日ありますよね。あれは習慣になってるよね。

事務局：ええ。

委員：9月と1月と2回行っているわけ？

事務局：9月は1週間、帯で関わっていらっしゃるかたたちのお話をうかがう、というネットワークづくりをしています。

委員長：どうも、長時間ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 25 年 3 月 27 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会